

(様式 1)

平成 23 年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 134	提案機関名	神奈川県養鶏協会、神奈川県畜産会		
要望問題名	採卵養鶏における吸血昆虫対策の研究			
要望問題の内容	【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 海外伝染病等の驚異な伝染病対策は非常に重要であるが、これに増して吸血害虫による被害も継続して多くの養鶏場での悩みの種です。産卵の低下、玉子の汚れ等経営には大きな被害となっています。薬剤抵抗性も急速に増えています。そこで、飼養形態と種々対策（化学的、物理的等）の組み合わせによる対策シリーズの作成をお願いします。			
解決希望年限	① 1 年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ② 2～3 年以内 ③ 4～5 年以内 ④ 5～10 年以内			
対応を希望する研究機関名	① 農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ② 畜産技術所 ③ 水産技術センター ④ 自然環境保全センター			
備考				

回答機関名	農業技術センター畜産技術所	担当部所	畜産工学担当
対応区分	① 実施 ② 実施中 ③ 継続検討 ④ 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 調査指導対応 ⑥ 現地対応 ⑦ 実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	<p>ワクモの防除には、市販殺虫剤の応用が一般的であり効果も高いといわれています。しかし、近年、殺虫剤によってはワクモに抵抗性が認められたり（村野. 鶏病研報, 43. 2007.）、ポジティブリスト制度の施行等により薬剤の使用を控える風潮にあることから、殺虫剤だけでワクモを防除することが難しくなっていくものと思われます。現在、天然資材の有機珪酸塩や植物由来のアロマオイルなどを原材料としたワクモ防除資材も販売されており、実際に現場で使用した効果について評価が待たれているところです。</p> <p>今後、ワクモ対策について情報収集に努めるとともに、当センターでもワクモ発生時に効果が期待できる方法を試行し、その効果について情報提供させていただきたいと考えております。</p> <p>参考までに、当センターでのワクモ防除対策をご紹介しますと、ワクモの発生を確認したらなるべく早めにケージや餌樋のつなぎ目のワクモの集塊を水洗しワクモの数を減少させてから薬剤を散布して、一週間後にまた洗浄・薬剤散布を実施しています。なお、ワクモの集塊が大きい場合には、手間は掛かりますが、金属部などの不燃性の部位にはガストーチ、可燃部位には熱風機（ホットストリーMS100v: (株) 農業機械研究所）で焼きワクモの集塊を殺滅しています。このような処置により、現在までのところ、ワクモの発生はある程度抑えられているようです。</p>		
解決予定年限	① 1 年以内 ② 2～3 年以内 ③ 4～5 年以内 ④ 5～10 年以内		
備考			